平成１８年度第２回おおいた子ども・子育て応援県民会議会議録

日時　：平成１８年９月２５日（月）１３：３０～１５：３０
場所　：大分県共同庁舎１４階大会議室

１．開会
２．大分県知事あいさつ
３．会長あいさつ
４．議事
　（１）大分県次世代育成支援行動計画の進捗状況等について
　（２）各団体における次世代育成支援のための取組内容について
　（３）次世代育成支援施策に関する意見・提案について
　（４）意見交換
　（５）その他
５．閉会

１．開会

【司会】　本日は、皆様方にはお忙しい中をご出席いただきましてありがとうございます。司会を務めさせていただきます、少子化対策課の後藤でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

県では、会議は公開を原則としておりますので、本日の会議も傍聴席を設けております。

また、会議録や会議資料につきましては、原則として、全て県庁ホームページに掲載することとしておりますので、ご了解いただきますようよろしくお願いいたします。

それでは、定刻になりましたので、ただ今から「平成１８年度第２回おおいた子ども・子育て応援県民会議」を開会いたします。

はじめに、広瀬知事から皆様にごあいさつを申し上げます。

２．大分県知事あいさつ

【大分県知事：広瀬勝貞】　皆さんこんにちは。皆様方には、今日「おおいた子ども・子育て応援県民会議」に、大変ご多忙のところご出席いただきまして、ありがとうございました。

今日の会は、本年度になって２度目ということでございます。皆さんには大変お世話になっております。ありがとうございます。

先週末の新聞発表によりますと、今年の１月から７月までに生まれた子どもの数が、全国でも、あるいは大分県でも、昨年よりも増えているという、大変吉報が入りました。景気回復が一つの材料になった、あるいはまた、第二次ベビーブームの方々が子どもを産み育てる時代になったと、原因はいろいろ言われておりますが、私は、この県民会議で、皆さん方が子ども・子育て応援について熱心な議論をしていただき、子どもを産み育てるということが、大変楽しいことだと県民の皆さんがわかってくれて子どもが生まれたんではないかと、こう思っております。これは言い過ぎかもしれませんが、そのぐらい皆さんに期待しております

ので、是非よろしくお願いしたいと思います。

国の方も、少子化問題を大変気にしております。今年の来年度予算に向けての子育て支援関係の予算要求を見てみますと、前年度よりも１０％増ということでございまして、ようやく政策の真ん中に子育て支援というのが出てきたという感じがいたします。我々も、これから来年度の政策をいろいろ考え、そして予算を編成していく大事な時期でございます。

今日は、皆さん方に是非いろいろご意見をいただき、またご議論を賜って、そして、それを是非、来年度の政策や予算要求に反映させていきたいとこう思っております。大変重要な会議でございますので、よろしくお願いを申し上げます。

３．会長あいさつ

【山岸会長】　皆さんこんにちは。山岸でございます。「第２回おおいた子ども・育て応援県民会議」開催にあたりまして、ごあいさつ申し上げます。

皆様もお気付きのことと思いますが、少子化問題や子育て支援が、マスコミで取り上げられることが、この頃、とても多くなったと感じております。県民会議の委員として、マスコミの関心が高まってきたことを喜ばしく思っているわけですが、それにとどまらず、子育てを社会全体で支援するための環境づくりについて、行政はもとより、県民一人ひとりが主体的に考え、家庭や地域、学校、職場で具体的に取り組むことが求められていると考えています。

前回の県民会議では、委員の皆様方にそれぞれのお立場から、子育て支援について自由にお話ししていただきましたが、今日の会議では、前回の会議を踏まえ、今後、次世代育成支援を一層進めていくために、県に取り組んでもらいたいことなどについて、発表していただくことにしております。

本会議が実りあるものとなりますように、皆様方の積極的なご議論をお願い申し上げて、簡単ですが、私のあいさつといたします。

４．議事

【司会】　ありがとうございました。それでは、ここで、今年度新たに県民会議委員にご就任された方で、前回欠席された委員の皆様をご紹介させていただきます。

大分労働局の池田真澄委員でございます。

別府市福祉保健部の宮津健一委員でございます。

本日は、３１名中２７名の委員の方にご出席をいただいておりまして、安倍本子委員、馬越敦子委員、白根直樹委員、高浦加代子委員は、所用のため欠席でございます。

では、これより議事に入らせていただきますが、設置要綱第５条の規定によりまして、以後の議事進行を山岸会長にお願いいたします。

【会長】　それでは、座ったまま進行させていただきますが、よろしくお願いいたします。

まず、議題の１「大分県次世代育成支援行動計画の進捗状況等について」ですが、最初に、事務局から説明を願いします。

【事務局】　少子化対策班の平原と申します。資料は、１、２、３を事前にお配りしておりますが、私の方からは、資料１について説明をさせていただきます。座って説明をさせていただきます。

１ページに、「おおいた子ども・子育てプランの目標指標の進捗状況」ということで掲げております。前回の会議ではお示しできませんでしたけども、１７年度の数値がほぼまとまりましたので、ここでご説明をさせていただきます。

このプランにつきましては、ご承知のことと存じますけども、１７年３月に策定をいたしまして、１７年度から２１年度までを計画期間としております。そういう意味からしまして、１７年度が最初の目標の達成期間ということで、まず総括的にお話し申し上げますと、４０項目の目標数値を定めております。１ページから２ページにかけて掲げておりますけども、その中で、１６年度から１７年度にかけて、同等の水準であったもの、あるいは上向いたものが、３３項目でございます。一方、前年を下回った項目が６項目、２ページの３０番は現在まだ集計中ということですが、大体、初年度にすれば、まずまずの滑り出しかなというふうに考えています。

更に、平成２１年度の目標数値に既に達したという項目も６項目ほどございまして、また、これは新たな更に高い目標に向かって頑張っていきたいというふうに思っております。その中で若干下がったところについてご説明させていただきますと、１ページの３番の、住民が会員制で子育てを助け合うファミリーサポートセンターというものが、１町村減っております。これは市町村合併に伴うもので、１８年度については復活する予定であり、今後とも増やしていきたいと思っております。

５番の幼稚園での預かり保育が、前年度１２７から１７年度は１２６ということで、私立幼稚園が１減っております。これは幼稚園そのものが休園したという特殊事情によるものですけれども、ここも頑張っていきたいと思っています。

それから１５番、中学校における不登校生徒の出現率ということで、小学校の方は、下がっており好ましいんですけども、中学校におきましては、前年度２．４８％から２．７１％と若干上がっておりまして、ここについても、また対策を講じる必要があるかなと思っております。

２ページをお願いいたします。２３番、障がいのある子どもへの特別支援事業に関する教諭免許の取得率ということで、小中学校部は、前年の８８．８％から８４．８％と若干下がっております。養護学校と一般の小中学校との教職員の人事異動の関係もあり、一般の教職員の免許の取得率が若干低いことからこのようになっており、ここも頑張っていきたいと思っております。

それから３３番、体力運動能力調査で、県平均が全国平均と同程度か、上回る種目の達成率ということでございますけれども、前年度２６．６％から１７年度１８．２％というふうに下がっております。ここについても、所要の施策を講じ、頑張っていきたいと思っております。

それから３８番、県外からのＵ・Ｉターン希望者相談件数ということで、これは主に若者の雇用の確保という観点から目標数値に掲げさせていただいておりますけども、前年度が６５３件、１７年度が５８４件というふうに下がっております。ただ、この場合、県の方で１７年度中にホームページを立ち上げまして、そちらをご覧になってＵ・Ｉ・Ｊターンを決められた方もいるということで、相談件数は減っておりますけども、総体としては、同じ水準を維持しているのではないかと考えております。

続きまして、３ページ以降の資料について若干ご説明をさせていただきます。

前回の会議の中で、少子化について総花的ではないかということで、限りある予算を選択と集中ということで使ったらどうだというご意見がございました。そのとおりでございますが、前回資料がなくご説明できませんでしたので、改めまして、そのことについて、表により、お示しさせていただいております。

県では、行財政改革を進める中で、選択と集中ということで特別枠を設けまして、例えば合併新市に伴います旧町村部への支援ですとか、ごみゼロおおいた作戦の推進、あるいは、もうかる農林水産業「the おおいたブランド」の形成、あるいは学校改革の推進等々、１８年度につきましては７３事業で１６億円ほどの特別枠を設け、施策を実行しているところでございますが、子ども・子育て応援社会づくりのための事業として、１０事業、総事業費約９億２，４００万円中、約３億８，０００万をこの特別枠を使い選択と集中を図っているところでございます。

４ページをお願いいたします。次に、そういった特別枠なり、それぞれの部局が持っております部局枠という予算で、少子化関連の事業ということでここに改めて整理させていただきました。前回は２０６事業ということで、すべて少子化に関連あるのかといったご意見もありましたけども、今回は４８事業について計上させていただいておりまして、５ページ以降、その事業の説明をさせていただいております。ただ、１つだけ弁解気味ではありますが、子ども・子育て応援プランといいますのは、４ページにありますように、１から７までの基本施策を設けており、例えば地域における子育ての支援ですとか、子育ても仕事もしやすい環境づくり、あるいは子どもにとって安心・安全なまちづくり等々、非常に幅広い分野にまたがっております。したがいまして、各部局のそれぞれの担当する分野の事業と重複し、少子化関連というのが本当に幅広いという趣旨で前回は計上させていただいた訳でございます。ご指摘もございまして、その中でも特に主なものということで、今回改めて整理をさせていただききした。

以上でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

【会長】　ありがとうございました。

それでは、事務局の説明つきまして、質問、ご意見等がある方は、どうぞ挙手をお願いします。いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

（質疑なし）

【会長】　それでは、次に、議題２の、「各団体における次世代育成支援のための取組内容」に移らせていただきます。本来なら、すべての団体の取組内容についてご説明をいただきたいのですが、時間の都合もありますので、代表して３団体の方に、それぞれ２分程度で簡潔に説明していただきたいと思います。

では、お手元の資料２の４ページをご覧ください。まず、福祉保健の分野から、大分県社会福祉協議会の取組について、池邉委員さんにお願いいたします。

【池邉委員】　社会福祉協議会の池邉でございます。トップバッターで、２分間というと、なかなか説明しにくいのですけれども、昨年度この会議で、県社協の取り組み紹介する「支え合うまちづくり」のビデオができましたら、皆様方にご覧いただきたいという話をしましたが、でき上がってみますと、２５分という長い時間でございまして、なかなかこの場で見ていただくわけにもまいりませんので、先日、事務局にお願いして、ＤＶＤをそれぞれの委員さんにお送りさせていただきました。それと併せて啓発用のチラシも同封させていただい

ておりますので、取組の１のコミュニティの再構築としての支え合うまちづくり事業については、大体のところは、ご理解いただけたんじゃないかというふうに思っております。

今、各種団体いろいろな方が、見守り活動を進めておりますけれども、地域でありますとか、その家庭、個人という立場から見ますと、本当にそれが十分に行き渡っているのかなというところが課題としてございます。そういうことで、老人クラブでありますとか、自治委員会とか、他の団体の方もいろいろやっていただいており、それは貴重な活動でございますけれども、本当に必要な人のためにそれが行き渡っていないのであれば、それをどうすればいいかと、そういう支援体制をもう一度見直して、それをきちっとした形に持って行きたいというのが、私どもの取組でございます。これは地域の住民が中心になってやっていただく必要があるんじゃないかというふうに考えております。

そういうことで、皆様方のご協力もいただきながら、これから市町村社協とも一緒になって進めてまいりたいというふうに考えております。

それと、次の、日常生活における困りごとの調査、生活課題実態調査でございますけれども、これは、ここに書いているだけではなかなかわかりづらいと思いまして、別のプリントを用意してきております。それぞれの地域ごとの生活上の困りごとを感覚的に捉えるんじゃなくて、実態調査をしてみようということで、大分大学にご協力いただきまして、県内約１万８，０００所帯を対象に、旧５８市町村ごとにその結果が分かるような形で調査を今、進めております。

これは各市町村の民生委員、児童委員の方々にご協力いただきなら、９月末までに回答していただきまして、それを入力、分析して、今年中には報告書としてまとめ上げたいというふうに思っております。また、その結果につきましては、機会があればご紹介をさせていただきたいというふうに思っております。これは私どもの支え合うまちづくり事業の参考資料にもなりますけれども、今後、市町村の福祉施策、要するに社協の活動でありますとか、そういうことにも利用できる内容になるのではないかというふうに思っております。そして県が今進めております、市町村の周辺対策事業にも、これが活用できるというふうにも思っております。

つぎに３番目の少子化対策「出会いの場づくり」ですが、県も今年度の事業として、この出会いの場づくりの事業を組んでおりますけれども、私どもはボウリング教室を、ボウリング場協会と一緒になって、市町村社協にやってもらうように考えております。高齢者から子どもさんまで段階的にクラス分けをしていけば、独身者同士のクラス分けもできるのではないかと。大会ですと１回限りですが、教室なのでボールの持ち方からゲームの楽しみ方まで、何回か会を重ねることとなり、そのうちに何らかの結果が生まれるんではないかというふうに期待いたしております。

最後に、支え合うまちづくり事業についてでございますが、これは、平成１６年度の県の当初予算の特別枠で付けていただいた事業が株、ベースになっております。当時は佐伯市だけが合併しており、その佐伯市のモデル事業として実施したＮＰＯやボランティアとの共同推進事業が成長してきたとしいいますか、今こういう形になっております。まだ発展段階でございますので、これからも県の支援もどうぞよろしくお願いいたします。以上でございます。

【会長】　ありがとうございました。それでは、続きまして１２ページをお開きください。

教育の分野から、大分県高等学校長会の取組について、濱田委員さんにお願いいたします。
【濱田委員】　野津高校の濱田でございます。それでは、高等学校の教育という立場から、３点ほど、現在取り組んでいることを報告させていただきます。ただ、お断りしておきたいのは、事前に全県の高等学校を調査すればよかったのですが、なかなかそこまでいっておりませんで、私の知っている範囲ということになる点がややあるかと思いますけど、よろしくお願いいたします。

まず、最初に、ヤングヘルスセミナーの開催ということですけれども、大分県は、人工妊娠中絶の件数が、全国で上位であるというふうに言われております。私の持っているヘルスセミナーのデータからですが、平成１５年度は、全国で４番目に多いということがあげられております。そこで、学校の保健や家庭科等での指導に加え、保健所と連携をし、保健師さんの指導で、もっと専門的に、妊娠、出産という生理的な部分だけではなくて、命の大切さ、それから親としての心構えという視点から学習をさせております。本校は臼杵市保健所で２年生対象に実施しました。

その結果ですが、今年度本校で実施した事前の調査、それから事後の調査、それから知識の部分の調査もしてみたわけですけれども、今年度８２．８％が、このセミナーがよかったというふうに評価をしております。その中で、２４．１％、約４分の１が、性についてのイメージが変わったということで、甘く考えていたけれども容易ではないと、大変なことだと。それから生と性、つまり生きることとセックスということの意味、大切さがわかったということをあげておりました。それから、このようなセミナーを継続してすることについてどうかという質問には、全員が、後輩にもそれを継続して実施をしてほしいという回答があり、高校生段階でこのような指導をするというのは、次世代育成という視点からも効果があるのではないかなというふうに思っております。

それから２点目が、保育所でのボランティア活動ですけれども、独立行政法人国立女性教育会館の調査プロジェクト委員会（座長　牧野カツコお茶の水女子大学名誉教授）が、家庭教育に関する国際比較で、日本、韓国、タイ、それからアメリカ、フランス、スウェーデンの１２歳以下を対象にした調査では、日本は、特に、親になる以前に子どもの面倒などをみる、子どもの世話をしたという経験が非常に少ないというふうな結果になっております。

そのようなことから、本校は、たまたま保育所に隣接をしているという利点もあり、放課後ボランティア活動として、生徒は、授業だけでは得られない子どもへのかかわり方などの体験をしております。これはボランティア同好会が主導して実施をしているのですが、今年度は２９名が登録をして、３～４回そういう体験をするようになっております。知識、技術だけではなくて、保育者としての心の醸成ということも、高校生段階では必要ではないかなあというふうに思っております。将来的には、保育所だけではなくて、例えば学童クラブ等に出かけて、図書委員等も連携しながら、読み聞かせ活動というふうなのもしてみたいなあと思っております。

それから、障がい児を対象にしたサマースクールが全県で行われておりますけれども、本校は、全県から生徒が来ているということもありまして、サマースクールのボランティアにも出かけておりますが、障がいがあっても、健康な子どもでも、どんな子どもでも受け入れて育てるという心の醸成ができているのではないかな、できるのではないかなあというふうに思っております。これは全部の高校に呼び掛けをしておりますので、興味、関心のある生

徒は、ボランティアに出かけてそのような活動をしていると思っております。

それから３点目が、学校行事、主には、体育大会等に保育園児を参加させるということを行っています。地域の高齢者を招いての体育大会というのはよくありますが、本校では、障がい者も招待をして実施をしておりますけれども、保育園児も招待をして、ともに競技をするということで、子育てというのが身近な自分の問題として捉えることができるのではないでしょうか。生徒も非常に積極的に交流をしながら競技をしており、やさしいお兄さん、お姉さん的な対応をしているのを目の当たりにしまして、今後もこれも積極的に続けていきたいなと思っております。報告できる取組は大したことではございませんが、以上のようなことを高校の立場として取り組んでおります。以上でございます。

【会長】　ありがとうございました。野津高校さんは、すぐお隣に保育所があって、高校生と小さい子どもたちと接触するにはとてもいい環境だなと思いました。それでは、続きまして、労働雇用の分野から、大分県中小企業団体中央会の取組について、佐藤委員さんにお願いいたします。

【佐藤委員】　大分県中小企業団体中央会の佐藤と申します。よろしくお願いします。

まず、先程説明を聞きまして、非常にいろんな事業をやられてるなと思っております。私どもは、本年度、県より、民間企業協働型子育て支援事業の委託を受けまして、現在私どもの傘下の組合、あるいは企業に対して、組合の理事会、総会あるいは全体会議、それから講習会等を通じまして、次世代育成対策の内容等を説明し、仕事子育てサポート企業の申請の勧奨支援を行っております。

大企業は、今、景気がいいんですけども、皆さんご存じのように、中小企業は依然厳しい状況下にあり、従業員の職場環境の整備までは非常に難しいという意見が出ておりますが、長期的に見れば、企業のイメージアップにつながるんだという説明をいたしますと、理解を示していただける企業の社長さんも多くございます。現在のところ、私どもの会員からすれば非常に少ないのですが、４５企業から認証申請をしたいというご希望をいただいているところでございます。簡単でございますけども、以上でございます。

【会長】　ありがとうございます。従業員３００人以下の事業所にも声をかけていただいてるということで、大変ありがとうございます。

それでは、各団体等の取組については、資料２に、詳しく載っていますので、後でお読みいただければと思いますけれども、ほかに、特に、ここで説明したいという方がありましたら、お一人かお二人に限らせていただきますが、いかがでしょうか。よろしいですか。それでは、先へ進めさせていただきます。

今３つの団体に発表していただいたんですけど、このことについて何かご質問、あるいはもうちょっと深く聞いてみたいというようなことがありませんか。どなたからでも結構です。いかがですか。

それぞれ福祉の分野、教育の分野、そして労働雇用の分野、それぞれ特性があるかと思いますけども、どんな面からでもよろしいです。いかがでしょう。どうぞ。

【佐藤委員】　社会福祉協議会の池邉委員の報告に関連して、児童虐待が、個人情報保護の関係で、見つけるのが難しいという意見が結構あるんですけども、そこのところをどう考えているか、この事業でどうお考えになっているのか、ちょっとお聞きしたいと思います。

【会長】　それじゃ池邉委員さん、何かお答えできることがありましたら、お願いいたしま

す。
【池邉委員】　個人情報保護は、大変難しい問題であろうというふうに思っております。要援護者といいますか、そういう方を特定してしまうのではなく、さりげなく隣近所の人の見守りの中で、そういう気配なりを察して、適当なところに相談なり、その情報を伝達していくという形でないと、なかなか難しいのかなというふうに思っております。これから具体的に地域に入って活動を進めていくときに、そういう点を地域で十分相談をしながらやっていかなければならないというふうに思っております。
【会長】　よろしいですか。今朝のＮＨＫのニュースでも、警察もそういう気配があった時は直接的に入りなさいという、そういう警察庁の指示があったということが報道されましたですね。ほかに何かご質問等ありましたら、いかがでしょう。よろしいでしょうか、濱田委員さんや佐藤委員さんに対するご質問等ございませんか。
（質疑なし）
【会長】　それではまた、もし後で思いつくことがありましたら、お時間を取りたいと思いますので、その時によろしくお願いいたします。
それでは、各団体におかれましては、引き続きそれぞれのお立場からということで、取組の推進をお願いしたいと思います。
議題の３に移らせていただきます。３は、「次世代育成支援施策に関する意見・提案」ということになってきます。
先程、事務局から県行動計画の進捗状況についての説明や、団体の委員の方から次世代育成支援の取組内容についての紹介をいただきました。皆様方には、これらの資料を参考にしていただきながら、今後の次世代育成支援対策について、ご発言をいただきたいと思います。
お手元の資料の３をご覧ください。ここに委員さんの名前と意見・提案の内容等が書かれていますので、ご意見・ご提案をいただいた委員の方から、お一人２分以内でお願いいたします。なお、時間に限りがありますので、１５時２０分をめどにさせていただきたいと思います。それでは青柳委員さんからお願いしてよろしいでしょうか。
【青柳委員】　青柳です。こんにちは。まず冒頭に、前回の会議の中で、子どもたちのコンサートというのを開くと申し上げました。お陰様をもちまして、約３００人のお父さん、お母さん、そして子どもたちに、クラシック音楽を聴いていただくことができました。どうもありがとうございます。
それでは、お手元に、別紙ということで白い紙、表裏のものが１枚ございます。私が、今までこの会議で、子どもたちが楽しく安全に遊ぶことができる住環境とまちづくりというお話をしてまいりましたけれども、どのようなまちが子どもたちにとって住みやすいのかということを、具体的な事例をご紹介することで、皆様と一緒に考えていきたいと思います。
行ってまいりましたのが、福島県伊達市というところにある諏訪野団地というところです。これは福島県住宅生活協同組合が、平成６年に開発した団地で、全２８８区画ございます。この町は、養老孟司さんという方が「無思想の発見」という本の中で、子どもが増えている町ということで紹介されたことで、非常に有名な町でございます。
まず、裏面からを見ていただきたいと思います。ここに写真が２枚あります。上の写真をご覧ください。この写真でこの町の特徴がよくわかります。ご覧になっておわかりのとおり、１０戸程度の家が１つの単位となって、その中央に、コモンと呼ばれる広場ございます。通

行量の多いメインの道路から、コモンの道路に入ってくるという道路設計になっておりますので、ただ通過するだけの車が入らない、関係ない人は入り込まないというような設計になっております。これは交通安全上、それから防犯上に非常に有効な環境をつくっておりまして、それともう１つは、全ての家がコモンに向かって開かれているということが見て取れます。

こうなりますと、コモンにいる人は、常に誰かに見られているという感覚になります。住民にとっては、その目が安心ということになりますし、関係ない人間にとっては、その目が犯罪の抑止につながるということで、実際にこの町では、町ができてから１２年間犯罪が１件もないということでございます。更に、コモンをはじめ、個人の敷地内にも緑が非常に豊かにあります。子どもたちにとってこの緑が身近にあるというのは、非常にいい環境だということができます。

以上がハード面の特徴ですけれども、この町の第２の特徴は、町の運営というソフト面にあります。この町では、戸建て住宅地としては珍しく、団地管理組合法人という法人格を作って運営をしております。更に、ＮＰＯサスティナブルコミュニティ研究所という研究所がございまして、ここは、管理組合が技術的なサポートやまちづくりのヒントを必要とした場合に、専門家の立場から助言を行うという組織でございまして、このＮＰＯの構成員は福島県の職員、それから国内外のまちづくりの専門家、錚々たる名前が入っておりますけれども、こういう人たちが不定期に、そして住民の質問に対して、懇切丁寧に答えていくというバックアップを持った町というところでございます。

こうしてできた諏訪野団地ですけれども、時間がありませんので、最後に、その写真の下の方に女の子の写真がございます。これは去年の秋の写真ですけれど、熊手を持って落ち葉を拾っている写真でございます。この写真を見て私が感じたのは４つございます。１つは、この町が安心で安全な町なんだろうな、つまり子どもが一人で落ち葉を拾うことができる。それから自然とのふれあいができている。子どもにとって、あぁ、落ち葉の降りてくる季節だなあと、これを実感しながら生きていける町。それからコミュニティの形成、つまり皆の広場は皆できれいにするんだという意識が育っている。更に、地域アイデンティティの確立、つまりこの町は自分たちでいつもきれいにしていたいという気持ちが、子どもたちの中も持っているんではないかと思います。

皆さんがお住まいになっている町で、こういう子どもの姿がありますでしょうか。もしないとすれば、じゃどういうことをすればこういう子どもたちの姿が戻ってくるかということでございます。こういった取組にはいろいろな事例もありますし、ノウハウもございます。あとは、こういう町をつくるかつくらないかという、行動するかしないかというところの問題ではないかと思います。是非、大分県でも独自の取組でいいまちづくりを考えていきたいというふうに思っております。以上です。

【会長】　ありがとうございました。住宅地開発の時にも随分と役に立つアイデアだなというふうに思って聞かせていただきました。次にそれでは、阿部委員さんどうぞ。

【阿部委員】　私は、小中学校の校長会の代表で出ております。学力向上のもとは、言うまでもなく、きちんと３食を摂ることだと考えております。それで、今最も大事なのは、食育ではないかなというふうに思っています。朝食を摂る子どもを１００％にする。いたってわかりやすい目標じゃないかなと思うのですけれども、現実には、衣食住の面倒をみる親がい

ないとか、生きるための躾を怠っている親がいるなど、危機的な状況にあるというのが、全国的な流れであります。

そういった意味もありまして、数年前から生涯学習課主催で、子ども・子育てのための講座というのを新入児の親を対象に、年に一度必ずどこかの学校で実施しており、朝食は摂らないといけないということを伝える等、親育てをしているところです。いみじくも今朝の合同新聞の教育を考えるというところに、私たちの先輩であります全国の校長会の会長さんが、躾の責任は親にという意見を述べており、逐次細かく読んだのですけれども、この考えに尽きるんじゃないかなと思います。もしよろしかったら、今日お帰りになって読んでください。

それから、学校には、学校栄養士、栄養職員がいるんですが、栄養士に教諭の免許を取っていただいて、教室の中に入って、担任と一緒に食の教育、食のための授業をするように、県の教育委員会の方と進めているところです。栄養士や栄養職員の人数を総額裁量制の中で増やすということは難しいんですけれども、食に関することはとても大事だということから、推し進めていきたいと思います。

最後になりますが、地域の人との交流が学校の大きな役割であり、そういったことにも、学校は全力を挙げて取り組んでいきたいと思います。ちなみに、私が勤めている学校はとても田舎なので、３世代という家庭が多くございます。そういったところでは、朝食抜きという子どもたちは殆どいません。また、学校と地域が密着している地域でございますので、人を知るということがとても大事なことだと思っています。教育については、後の人たちにもそういうことを頑張って伝えていきたいと思っているところです。甚だ簡単ですけれども、終わります。

【会長】　食を大事にしていこうというご意見が今出されました。それでは、続きまして、安東委員さんお願いいたします。

【安東委員】　大分県保育連合会の方からまいりました安東です。保育園の方では、いろいろな取組をしておりまして、一時保育、一時預かり、休日保育、延長保育と、かなり充実してまいりましたけれども、やはり今一番考えられることが、家庭の子育ての力の低下ということです。子育ての講演や、子育ての活動などを通じて、保護者の方に、子育てというのは一体どういうものかということを周知したいと思いますが、なかなか、よい講師が見つからず、また、講演会を開くに際しての資金とかがありませんので、県で取り組んでいただいて、そちらに保護者の方に行ってもらうようにできればよいなと思います。そういうところでご支援をお願いしたいと思います。

それから、今、一番保育園で大変皆さんが言われることは、障がい児保育のことです。ボーダーラインの子ども、軽度発達障がいの子どもたちが大変増えまして、保育士の加配は、いろいろな書類等が大変難しく、十分な保育ができない状態になっておりますので、そういう面でもご支援をお願いしたいと思っております。

また、マスコミなどの影響というのは、大変保護者の方や子どもたちの間で影響力がありますので、もしよろしければ、大分県で特別な子育ての教育番組というのを制作していただいたら、大分県の教育内容というものを身近に感じられると思いますので、そういうものも、もしできましたらよろしくお願いしたいと思います。大変短いですけども、よろしくお願いいたします。

【会長】　ありがとうございました。保育というのは人生の一番基本のところなんですけど、

そこから見たことでご発言いただきました。それでは、今日、この資料に沿ってということで、次は大嶋副会長なんですが、大嶋副会長と私は、最後にさせていただきまして、次は後藤委員さんお願いしてよろしいでしょうか。

【後藤みか委員】　公募委員の後藤みかです。私の方からは４点ほどあげさせていただきました。私も今、実際に子どもを４人抱えて毎日悪戦苦闘しておりますけれども、周りのお母さんたちの間では、子どもを育てるのにお金がかかってというような経済的な問題がよく話題になりますが、各委員さんからのお話もありましたように、１番の問題は、やっぱり子育ての不安であり、ピンチに対応するためのシミュレーション的なことができづらいということです。予防的な観点をもっての子育てができるような取組ということで、先程お話にあったような、中高生のときから子育てについての体験学習、文字面だけでの勉強じゃなくて、子どもに触れてみる、温かい、柔らかい、可愛いとか、そういうふうな感じる学習を県下で行っていただいて、全県、全学校に広がってほしいなというふうに思いました。

あと、私自身やっぱりいろんな形でお母さんたちの中にいると、結構、良い子に育てないといけないからというふうな重圧に苦しんでいるお母さんが結構いらっしゃって、躾の責任は親というのは勿論わかっているんですけれども、厳しい躾が虐待へと常習化して、死亡に至るような事例もありますし、また、本当に経済格差というものもあり、子どものいろんな教育、それから保育、養育、そういうことも二極化してきています。非常に敏感なお母さんと、そうでないお母さんがいて、ＰＴＡの懇談会等でも、随分違いがあるということが話題に上ることがあります。自分の子どもは一生懸命忘れ物がないように揃えてやってるのに、他の友達が忘れちゃったから貸してあげてなくなったとか、そういうふうなちょっとしたことで友達同士のトラブルが生じたり、子どもたちが嫌な思いをしたりとかいうこともあり、そんなことをお母さん同士でいっしょに話したくてもなかなか話す場がないとか、そういう現実があります。

あと、やっぱり育てていく中での休暇の問題です。高齢者の施策の中に介護者の負担軽減が大きな柱として掲げられているように、少子化対策や育児支援策にもやっぱりちょっと余裕を持って、お休みすることを認めてもらえるような社会的なあったかい目がほしいなあというふうに思います。ベビーシッターの無料利用券とかも書かせていただいています。

大分の子どもたちにも、中央を志向し、それから国際化ということで、羽ばたいていってほしいとは思いますが、ずっと大分にいて、地域を支えてくれるような大分ブランドの子どもたちが循環していくような社会になっていくことも、親としては望んでいます。以上です。

【会長】　ありがとうございました。現場でいろいろとお仕事なさっていて、二極化が進んでいるというところからお話しいただきました。それでは、後藤委員さんお願いいたします。

【後藤美和委員】　後藤でございます。よろしくお願いします。現在、私、ＴＯＳで県政の番組でございます「ほっとはーと OITA 」という番組を担当させていただいておりまして、大分の今を、県内各地、様々取材させていただいております。その中でも、去年から今年にかけて、とても子育てに関する取組というのが充実しておりまして、その中でも、特に私が印象に残ったのが、大分県立図書館に開設された「子育て情報コーナー」です。その図書館のコーナーは大変賑わっておりまして、小さいお子さんとか、小さいお子さんを連れたお父さんやお母さんが、連日詰めかけて賑わっているということを取材させていただきました。

やはり、そういった部分でも、その図書館のコーナーができたというのも、そういったお

父さんやお母さん、子育てをなさっている皆さんの要望があって設置されたということを聞いておりまして、やはり皆さん、そういう子育てコーナーとか情報がほしいんだというのを、何か直に感じた気がいたしました。

今回、私が、提案させていただいたのが、この１０月に開設される「おおいた出会い応援センター」に関することです。私、この中では唯一かも知れないんですけど、独身のメンバーといたしまして、この応援のセンターには、注目しないといけないのではないかということで、ホームページをちょくちょくチェックさせていただいています。いろいろな出会いのパーティーなども開催される予定のようなのですが、私が書き込みの中で特に注目させていただいたのが、独身のお子さんを持つお母さん、お父さんたちのお見合い、代理のお見合いです。これは、全国的にもニュースなどで取り上げられおり、結構人気があるというふうな情報を得ております。

大分にも実際そういうふうな悩みをお持ちの、うちの母や父はどうか分かりませんけども、そういう方もたくさんいらっしゃるんじゃないかと思いますので、独身の男女だけではなく、是非そういったお父さん、お母さんにも目を向けて、代理お見合いというのもテスト的に行っていただいてはどうかななんて思いましたので、今回提案させていただきました。もし実現の際には、私どもの番組で取材させていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

【会長】　そうですね、素晴らしい番組ができそうですけど、ＮＨＫさんともしかしてかち合うかもしれませんけど、佐伯委員さんいかがでしょうか。

【佐伯委員】　ＮＨＫの取組としては、今は、番組としては特に行っていないのですが、番組内のコーナーなどでは行っているのですけれども、来年度以降はちょっと考えたいとは思います。

で、私の提言といいますか意見ですけども、直接子育てという立場にありませんので、あくまでマスコミの一人間としての意見として聞いていただきたいと思います。内容としては、前回お話ししたこと等を書かせていただきましたけれども、これに加えて、書いてない部分として今言わせていただきますと、働きながら子どもを産み育てるためのバックアップ部分が、ちょっと少ないのではないかと、この資料１の関連事業を見させていただいて思いました。

というのも、国の方針では、子育て支援策ともう１本、働き方の改革というのも二本柱みたいな形で提言されていると思うんですけれども、私は、その部分がちょっと弱いんではないかと受け止めています。

その理由の１つに、都道府県別の合計特殊出生率が、４７都道府県で１つだけ増えた県があるんですね。それが福井県で、１．４７です。ちなみに大分県は１．３９ですが、その福井県は、共働き率全国１位、女性就業率全国２位、３世代同居率全国２位と、この数字がバックボーンになって出生率が上がったんではないかと分析しているようです。

子どもの支援も大切なんですけども、やっぱり働いてる女性が、結婚してもう仕事辞めるんだったら、もう子どもいらないわとか、結婚しないわとかいう部分が私はあるのではないかなと推測しています。その裏づけはないんですが、数字を見るとそういう面もあるんではないかと思いますので、この資料の１０ページにある、働き方の見直しの部分の２つの事業にもう少し予算を付けて、枠も増やせばいいのかなという印象があります。

そう思っていましたら、兵庫県で、再就職する女性の１か月当たりの賃金の半分を助成するというニュースを先週見ました。３か月間、１人当たり３０万円を限度に払うということですが、先程お話がありました中小企業の方なんかは、実際問題お金がかかって雇えないよとかいう部分もあると思うので、そういった実務的といいますか、実際上の問題としてお金の支援も必要ではないかという思います。

あともう１つ、若い人の意見を聞いていただけているのかなという部分があります。この会議も、それぞれの分野の学識経験者といいますか、経験のある方がお集まりですが、やっぱり２０代ぐらいの、これから子どもを産むか、結婚しようかという方の意見をうまく吸い上げるシステムがあれば、もう少し考え方も変わってくるんではないかと思いました。

さっき社会福祉協議会の方でアンケートをするとおっしゃってましたけど、その項目に、どうすれば子どもを産みたくなるかみたいな質問を加えていただくと、一石二鳥かと思ったりもいたしております。以上であります。

【会長】　ありがとうございました。そうするとまた、先程とは違った意味で新しい何か番組が作られるかも知れませんね。期待しておりますのでよろしくお願いいたします。それでは、次に今度は柴田委員さんお願いいたします。

【柴田委員】　前回は、ちょっと都合がありまして欠席しまして、今年は初めて出席しております。よろしくお願いします。私どもの会員企業は、ご夫婦から１００人程度の、ほとんどが中小企業でございます。先程から、費用のこと、景気対策のこと、景気も上向いたとおっしゃられておりますけど、現実、本当に厳しいものがございます。私どもは、月に１回、例会を開いておりますけれど、必ず厳しいねと、どうしようかと、もうそれが合言葉のようになっております。

私ごとですけど、私は建設業に携わっておりますけれど、先般、知事さんが８月に例会に見えまして、建設業を取り巻く環境は厳しいものがございますと言われました。いつまでこんな状態が続くのかと思うのですが、企業は厳しくても、やっぱり私どもは社員とその家族や子どもを守る義務がございます。子どもに幸せを与えなければいけないし、中には、障がいのある子どもを持った社員もおりますので、まあ、微々たるものですけれども、やはり相談にのってやれるのが私どもの立場じゃないかなと思っています。ただ、今は、もう生活に一生懸命で、人様のお世話はなかなかできないのが現実です。

会員とは、子育てもいいけど、介護の問題もあるとの話がでます。先程、子どもの朝食抜きの話がございましたけれど、３世代同居が当たり前の私どもは、朝を抜くなんていうことはお年寄りに対してはできませんから、ほとんどありません。子どもも好き嫌いはなく、学校の給食にも何も問題はなかったと、皆の雑談の中で出ております。会員は家に帰れば主婦でございますから、親に対する食事、子ども、孫に対するいろいろなしがらみがありますけど、生涯現役で頑張っているのが私どもの団体だと思っております。

３番目の、産婦人科医院の減少は、たまたまうちの娘が豊後大野市に嫁ぎまして、１０月の終わりに出産するんですけども、豊後大野市と竹田に産婦人科は現在１つあるそうです。娘は公務員ですから、お休みを１日いただいて検診に行くのですけれど、これが個人経営の企業だったら、「えー、あなた定期健診に行くのに、そんなにかかるの」と言われてもしょうがないし、言いたくもなるのではないかと思います。やはり子どもを育てる前に、産むところの環境づくりを是非お願いしたいと思います。それがやっぱり子どもをたくさん産むこ

とにつながるのだと思います。提案になるかどうか分かりませんけど、これ私の率直な考えですので、よろしくお願いいたします。

【会長】　子どもを産む環境、とりわけ女性が働いたり、それから検診を受けたりする、そういうことがもっと気楽にできるというようなことだと思うんですね。ありがとうございました。それでは、次に、仙波さん、お願いします。

【仙波委員】　仙波と申します。よろしくお願いいたします。

私は、大分の子どもの未来像を描き、県の関係機関が、横の連携で取り組み、長期構想で子育ての支援をすることという意見といいますか、提案を書いておりまして、とても抽象的な書き方で、思いとしては何か幼稚かなと思って、今からお話しするのもちょっと恥ずかしいような感じもするんですが、年代別に、モデルといいますか、そういう子どもの理想というか、こうあってほしいという子どもを、大分太郎君とか豊後花子ちゃんとかいう名前を付けて、キャラクターを作ってはいかがでしょうか。それぞれの成長期にこうあってほしいというような思いを込めて、親と小さな子から見ても分かりやすいようなキャラクターで、そういうふうに親としては成長してもらいたいなとか、子どもから見たら、ああいうふうなお兄ちゃんやお姉ちゃんになるんだというような、何かそういうものです。時間がかかるような何か感じもするんですが、気長な取組もあって良いのではないかなと思ってちょっと書かせていただきました。

うまく言えませんけど、ちょっと抽象的過ぎて説明も不足ですが、そういうことで書かせていただきました。

【会長】　子育てには、長期構想も必要だと思うんですね。そういうことで今具体的にお話しいただきました。それでは続きまして、田中委員さんどうぞ。

【田中委員】　こんにちは。諸先生方がいらっしゃる前で差し出がましい発言になるかもしれませんが、無礼をお許しください。田中と申します。佐伯委員が言われた、若い世代ということで、この会議の席に２５歳独身の私がいるというのが、非常に身が引き締まる思いでいっぱいです。よろしくお願いいたします。

県への意見・提案の内容ということで、５つも書かせていただきまして、しかもちょっと間違えている点もあるんですけれども、まず１番目に、障がい児保育園の手厚い補助というところですが、これは、私の所属するＮＰＯ法人での認可外の保育園と、あと障がい児や発達に遅れのある子どものためのデイサービスを実践してる中で感じたことです。

安東委員も言われたことなんですけれども、障がいがあるかないかというボーダーラインの子どもたちの親から、行き場所がないということを、ほぼ毎日のようによく聞きます。私の実施している事業は、大分市の南大分にあるんですけれども、戸次や大在、坂の市といった遠方からも、子どもを受け入れてほしいという要望が来ます。大分市内だけでこのように不足しているということですから、県全体で考えたらもっとあるかなと思います。で、以前の会議でもその点が問題視されて対応されているようなんですけれども、子どもが行ける場所というものを増やせるような整備をよろしくお願いいたします。

２番目に、ＮＰＯとの協働ではなくて、ＮＰＯへの補助をお願いしたいなと思っております。私自身がＮＰＯ法人を経営しており、県との協働ということで、説明会にも何度か参加させていただき、いいアイデアを持っていくんですけれども、予算の使い方で指摘を受けたり、で、結局応募できなかったことが、もう今の段階で２回あります。ですので、協働をす

べて否定するわけではないんですが、ＮＰＯの自由な発想を生かすためにも、子育てや魅力あるＮＰＯに対しては、協働ではなくて、補助制度というものを整備していただきたいなと思います。お願いいたします。

３番目は、新生児への補助ということです。私たちのＮＰＯ法人でも子育て支援を行っており、そこに来ているお母さんや、私の姉から聞いた話です。私の姉は、この前、８月３０日に女の子を出産しました。勿論、大分県内で出産しました。子どもを産みたての親の声を聞いてみたのですが、記載したことは、大分県と大分市の内容を混同してしまっていたので申し訳ございません。ただ、子どもへの新しい素晴らしい制度ができたことに関しては、アナウンスはよくされるのですけれども、なくなってしまった制度に関しての説明があまり伝わってきていないということで、特に医療制度のこともありますけれども、大分県内の市町村によって、子どもへの行政サービスの格差がなくなるよう制度の整備をお願いしたいと思います。

４番目は、授乳室の充実をお願いしたいと思っております。

５番目は、ここで祝い金と書いてしまったんですけど、これ一時金の間違いです。申し訳ありません。国民健康保険の出産一時金が後々支払われることになるのですが、出産するときに、貸付制度というのはあるようなのですが、もし出産一時金に対して、当然に立て替えてもらえる制度があれば嬉しいなと姉は言っておりました。出産に約３０万ぐらいかかるのですが、その金額を、病院を退院する際に払わないといけない、退院するまでに準備しないといけません。後々一時金として入ってくるのですが、その前に３０万を持っておかないといけないというのは大変だ、これではなかなか安心して子どもを産めないのでは、と姉も言っていましたので、是非そのような制度ができればなと思って書かせていただきました。すみませんよろしくお願いいたします。

【会長】　ご自身のＮＰＯ等での活動をもとにして、具体的な案を出していただきました。それでは、今度はＴＯＭ　Ｇ委員さんお願いします。

【ＴＯＭ　Ｇ委員】　意見・提案ということですけど、既に１つ実施した事例がありますので報告させていただきたいと思います。今日、資料の方にもありますけども、「子ども・子育て応援ラジオＣＭコピー募集」のチラシが入っておりますけれども、後程、もしかすると、応募状況など事務局から報告があるかと思いますが、事務局の平原さんに、番組の方に来ていただきまして、この募集のお知らせを、非常に親しみやすい語り口でしていただきました。１０月３１日まで必着ということなので、どうぞ皆さん今日ひとつ考えて、お送りいただきたいなと思います。１つ、僕の中で問題がありまして、応募資格が日本全国なんですよね。そして大分県知事賞の賞金は５万円なのですが、これもいわゆる全国から集まってくる中から選ばれるわけなんです。できれば大分県のアイデアが選ばれることを希望しておりますので、慎重に審査していただきたいなと、楽しんで審査していただきたいなと思います。

ちょうど、シーズンとしては運動会のシーズンでもありますし、そういう場面での親子の会話だとか、これから冬に向かってクリスマス、お正月ありますけれども、いろんな場面での親子の会話を、少しラジオＣＭに使えるような形で書いていただいて、応募いただきたいなと。そしてこういうコピーを今募集しているということを、広く皆さんにも口コミ等々でお知らせいただきたいなと思っております。

先程から、いろいろマスコミへの露出など話題に出ておりますけども、僕としてはあまり

露骨にならずに、ＦＭラジオですから自然体で、リスナーメッセージなんかと絡めながら、自分の体験をもとに、そういったお知らせ情報などを伝えていきたいと思っております。以上です。

【会長】　ありがとうございました。マスコミの力というのは、本当にわっと出る場合もあるけど、静かに浸透していく場合もあります。そこを是非よろしくお願いいたします。それでは、西村委員さんお願いします。

【西村多恵子委員】　皆さんこんにちは。いつもお世話になっております。私が言いたいことは、ほとんどさっき佐伯委員が言っていただいたというか、働きながらできる子育ての充実というか、親へのサポート事業をもう少し考えていただきたいということです。やっぱり経済面もありますし、最近、母子家庭、父子家庭も増えており、どうしても時間に余裕がないという親もたくさんいます。子どもへの事業はたくさんあるのですが、親への事業がやっぱり少ないのかなという感じはしています。

そして、後は、いろいろな講演会や、大きな大会などを県とか国とかでしていただくことはあるんですが、ほとんどが昼間の開催で、出る保護者も決まっています。やっぱり出れない保護者という人たちにどういった手助けをしたらいいのかなというのも、とても保護者の中で課題になっております。

そして、もう１点は、育成事業としていろんな事業が来るんですが、高Ｐ連の方が書いていただいているんですが、「地域の宝育成事業」というのもありまして、幼・小・中・高連携で７ブロックに大分県を分けて、中学校を拠点にいろんなことをしています。この事業も３年目となり、事業をしている時はいいんですけど、ある年になると、ぱって切られてしまうんですよね。もう助成金も出なくなり、継続性がないというか、そういう事業が多いので、できたら続けていける事業を考えてＰＴＡ連合会なりに下ろしていただけたらありがたいなと思っております。以上です。

【会長】　ありがとうございました。子どもさんを直接育てているお母さん、お父さんの代表ということでお願いしました。それでは次、西村委員さんどうぞお願いします。

【西村慶治委員】　皆さんこんにちは。今、中学校１年生と高校１年生２人の娘を持っております西村と申します。ちなみにうちの娘は、ＴＯＭ　Ｇさん番組のリスナーなんですが、それはどうでもいいんですが、子育てはやっぱり本当に大変だと思います。子どもが生まれたら病気をする、怪我をする、学校に行ったら学校に行きたくないという、受験が迫ってくると試験はいやだという、いろんなことがあります。そんな中で、やはりいろんな困難があったときに、かつてであれば、身近に相談できる人がいたけれども、今はどこに聞いたらいいか本当に分からない。特に切羽詰ってる時には、自分の話をまず親身になって聞いてくれる人が１人でもいればということから、ワンストップサービスの窓口があればいいかなということで提案させていただきました。

ただ、実は、私は、そうはいっても、大変なことがあっても、子育ては非常に楽しいと思っていますし、今日、知事の話の中にありましたけれども、とにかく子育ては楽しいというか、本当にやっていていいな、いい経験をしているなと思っています。

ですから、そういったこれから子どもを産み育てる方々が、子育てはいいんだと本心で思えれば、どんな困難があっても、子どもを産むことを考えるかなと思うんですね。ちょっと事例は違うんですが、「ミッションインポッシブル」という映画の主演の、トムクルーズさ

んという方がいらっしゃいます。彼は皆さんもご存じかもしれませんが、ＬＤという学習障がいですね、文字がうまく読めない、時間のかかるという障がいを持っていらっしゃるそうです。ところが、彼は映画の主演男優ですね、ですから文字はたくさん覚えないといけない。さあ彼はどうしているかということで、実は専門のプロンプターといいますが、文字を読んであげる人を付けていて、耳から全部セリフを覚えているんだそうです。その話を私聞いたときに、あ、そんな大きな障がいを持っていても、例えば夢があれば、自分はこうしたいという本当に思いを持つことができる、やっぱり人間はいろんな障がい、困難を克服できるんではないかなと真に思いました。

ですから、勿論これからも、いろんな制度が整ってきても、やはりいろんな問題があるかと思うんですが、そんな中でも、やっぱり本当に子育ては楽しいんだ、幸せ、すごい良いことなんだと真に思えれば、私は一歩進んでいけるのかなと思ってます。そうするとですね、まさに少子化対策というミッションが、インポッシブルではなくて、まさに越えていけるんではないかと、こんなふうに思ってます。以上です。

【会長】　ありがとうございました。それでは濱田委員さんどうぞ。

【濱田委員】　それでは、濱田でございます。最初に、新聞等で報道されて皆様ご存じだと思うんですけれども、子育てについて非常に負担を感じていたり、自分の自由な時間が持てないという不満を感じていたりしているのは、共働き家庭と専業主婦を比較した場合に、例えば子ども未来財団の調査とか、厚生労働省の調査等から、どちらとも、専業主婦の方が多いということですね。子どもの数を見たときにも、共働きの家庭よりも、専業主婦の家庭の方が子どもの数が少ないという傾向がずっと続いているわけですね。だから少子化を少しもで食い止めると考えたら、専業主婦のそういう実態も踏まえて考えたらどうかなということで、地域子育てサポート事業というのが廃止をされたということを聞いて、子育てヘルパー制度（仮称）を書かせていただきました。ところが、これが昨日でしたか、新聞報道で、３年ぶりに日出の方で再開をされたということで、この提案については、もう実施をされているということになるんですけれども、そうはいっても、これを高齢者、障がい者を対象にしたホームヘルパー制度と同じように、きちんとした制度として認めたらどうかな、県としての資格制度にしてはどうかなと、今は感じております。

高齢者、障がい者を対象にホームヘルパー制度があるように、乳幼児期から学童期の子どもを支援するための専門職としての子育てヘルパーの養成をきちんとした形でして、共働き家庭と書きましたけれども、専業の家庭に関しても同じですが、自分自身のための時間が持てるような、そういうときにヘルパーの支援をお願いできるような、そういうふうなシステムを作ったらどうかなあと思っています。

県単独でヘルパー修了証、ヘルパー資格、そういったものを認めて、資格として位置付けると。運用については、現在あるホームヘルパー制度等を参考にしていけばいいのではないでしょうか。そういうサポーター養成というのは、地域づくりそのもので、大分市中心部などはわりとやりやすいと思うんですが、私の住んでいる周辺部、豊肥、県南地域等に関しては、そういうふうな制度でやっていかないと、なかなか農業とか自営をしてたりとか、共働きということで、ちょっとお願いしたいというときに、なかなかお願いするところがないのではないかなあという気がしてます。

それから、そういうのをするときに、高校の人材とか、それから施設等で、もし活用でき

るようなことがあれば、高校の立場として応援できればいいかなというふうに考えております。以上でございます。

【会長】　ありがとうございました。保育ニーズについては、保育所関係でもかなりいろいろ考えてくださってると思うんですよね。まだ勿論不十分かもしれませんけど、今度は、逆に、子どもが小学生になったときに、親より早く帰宅する場合を想定した支援というのは放課後児童育成クラブくらいしかありません。その意味でホームヘルパー制度というのが、もしかしたら重要な働きをするかもしれませんね。そう思って聞かせていただきました。それでは、今度は藤川委員さん、どうぞお願いいたします。

【藤川委員】　藤川でございます。すみません、私、このアンケートいただいたときに、前回私が提案したのは、どうだったのかなと思って、それをそのまま書いてしまいまして、何かそれについては参考にとか、なんかこうお話がいただけるのかなと勝手に思っておりましたが、そのままここに文字になって、こうやって文字で見ると、とってもいやな女に見えてしまうんですが、すみません。前回、私が提案したのが、いろんな事業があるんですけれども、それらの事業の横のつながり、縦のつながりといいますか、そういったところの強化が大切じゃないでしょうかというようなことをお話しいたしまして、やっぱり今もそれは大事なことだなあというふうに思っております。

その他に、生き方、価値観、多様化している中で、子どもに対して親が求める姿というのがあまり変わらないところで、子どもも随分負担に思う部分とかいうのも出てくるんじゃないかなということで、大人に対しても何か取り組みが必要なんじゃないでしょうかというようなことを前回、意見・提案させていただきました。

で、今日皆さんのお話をお伺いしながら、ふと思ったことを、提案として言わせていただきます。私は、以前、子育て番組を長いこと担当しておりましたが、そのときに、本当に現場の先生方のご意見というのに助けられました。ですから、それぞれの地域に保育所、幼稚園というのがありますけれども、そういうところが１つの核になって、子育て支援の核となって、いろんな悩みを持っているお母さん方に対応していただけるという、そういう場になっていくといいなあというふうに思います。例えば、保育所の場合は、共働きの場合のお母さん対象ということになると思いますが、今お話にありましたように、本当に専業主婦の方の育児負担というのが、とっても大きいなあということを、私自身、共働きの中で子どもを育ててきて感じております。

子育て番組やっている中で、最近いい傾向だなあというふうに思うのが、ファミリーサポートセンターにしても、どうしても共働きの方対象に、じゃ子どもをお迎えに行けないときには、そういうヘルパーの方が行きますよということは頼み安いんですけれども、専業主婦の方が、ちょっと美容院に行きます、ちょっと自分がリフレッシュするために出ますという時は、ちょっと頼みにくいというような環境もあると思いますので、皆さんの意識改革ができるように、私どもも報道の中で、お母さん気楽にお願いしてもいいんじゃないでしょうかというようなところで、またサポートしていけたらいいなあというふうに思っております。

【会長】　ありがとうございました。そうですね、いろんな意味で、子どもを預かっている人に対するサポートが必要なんだということを、今、つくづく感じさせられましたけど。それでは今度は藤本委員さんどうぞ。

【藤本委員】　皆さん、５月ぐらいだったと思いますけど、新聞に出ておりまして、見た方

はだいぶんおられるかと思いますが、もう一度思い出していただけませんでしょうか。これは、東京にあるＮＰＯが、それぞれの市町村にある子育て支援策等いろいろメニューを調べましてね、たくさんメニューがあるところほど、子育てがしやすい町だということを発表したものでした。それで、実は大分市は総合で全国１位なんです。つまり大分には、誰が見ても分かるような素晴らしいメニュー、非常に良い施策がたくさん準備されてあるんですね。ところが、じゃあこの大分で暮らす我々が、本当に大分が日本一だと実感できるか。先程、この少子化がどんどん進んでいる中で、少子化が食い止められ特殊出生率が上向いてるところは福井県だったということが出ておりましたけど、大分ではそういうふうに上がってないわけですね。

それはなぜか。いろんなある施策が皆に行き届いて知られてない。その利用方法が分からない。その利用方法をちゃんとガイドする人が誰か分からないからではないでしょうか。皆さん方から今いっぱい意見が出ました。例えばワンストップサービスもそうです。１箇所に行けば、そこが入口で、出口がいっぱいあって、その出口の方向をちゃんと示してくれる。利用しやすい施策の案内は、ただ文字を見ただけではわからないことも多いので、この地域では誰のところに行けばちゃんとわかるというようになるといいと思います。そういう、今現在あるいろんな施策が、本当にうまく利用できるような、その情報の提供の仕方ということを考えることが一番大事かなということで、この１番にあげました。

次は、例えば、皆さん方の話にもありましたけど、何か問題を持った方とか、本当に支援が必要な人には、ちゃんと支援の手は届いてるんですね。それは、困難に対する手助けはきちっとできています。ところが、先程障がいの話も、ボーダーラインの話も出ました。それからもっと、全く健全な人もいっぱいおるわけです。例えば比率からいうと、健全な方の方が圧倒的に多いわけですね。

そういうふうになりますと、何らかの問題を持った人は、何らかの形で手が差し伸べられてますけど、ある領域から越えたときに、それが問題があると言われるわけで、大きな溝があってかけ離れてるわけじゃなくて、おそらく、なだらかなスロープ状になってて、その困難さの感じ方は、あるいは手が必要な度合いというのは、どっかできちっと境があって示されるものじゃないだろうと思うんですね。

ですから大部分のマジョリティー、大部分である健全な人たちに、どういった支援をするかということに、やっぱり視点を大きく置かなくちゃいけないんじゃないか。勿論本当に支援が必要な人たちはいますから、今までの制度も利用できるし、それはそれでいいんです。そういった意味で、このネットワークの構築ということが非常に重要になるかと思います。これだけですと、まだ抽象的で分かりにくいと思いますが、例えば今いろんな制度がありまして、私ども大分県医師会では、産科医会、小児科医会等、それからあるいは行政の保健師さんたちとネットワークを作りまして、ペリナイタルビジットというのやっています。その中で、お産をしたお母さん方で、子どもを育てている中で、産後に鬱になる方は、お産をした人の１０％と、これはどこでも同じような割合で出るんです。その人には、早く対策とってあげるということが必要なのです。産科でもいい、また我々小児科でもいい、あるいは誰でもいいので、産後鬱の対策の事業がありますから、その中では質問紙があって、ある何点以上はというような形でピックアップされているので、誰かが発見し、次はそれを専門にやってる産後鬱に詳しい精神科の先生に結び付けていきます。つまり、これは、産科と小児科

と保健師との間でうまくネットワークができてるからできることなんですね。それを利用して、次にはじゃあ、鬱の問題でも、精神科も取り入れてやっていこうというようなことが、今アイデアとして出されております。

そういう意味で、今ある事業をきちっとうまく利用できるような形にしながら、そして、その中で生まれるいいネットワークによって、すべての人にそれが行き渡るようにということをお願いしたくて、この２つの提案をしております。

【会長】　そのネットワークが本当にうまくつながっていくと、今おっしゃったように、大分県は全国でもトップレベルの環境はあるんだということだったですね。それでは、牧野委員さんお願いいたします。

【牧野委員】　ここに意見は書いておりますけども、出生率は、幼稚園で見てみますと、結構２．５はもう超えているのではないか、３人を産んでるご家庭が多いので、幼稚園で見ると、結構立ち上がっていくんではないかと思っておりますが、今、幼稚園で、親子の関係の問題とか出ておりますので、幼稚園としてどういうふうなことができるかということを考えてみました。最初の資料の２のところに、幼稚園としての連合会としての取組も書いておりますけども、幼稚園を地域に開かれた場所にしていきたいという思いを持っております。小さい子どもさんが、親御さんと一緒に遊びに来れる場所として、幼稚園は安全でありますし、いろんな子どもたちが遊べる空間や場所がたくさんありますので、その中で子どもたち、それから親御さんを引き受けていく場所でなくてはいけないんではないかと思います。

それから、子育ての相談も、今、いろんなお母さん方が、いろんなもう悩みを持っていることをいろいろな場面で感じておりますので、そういう手助けをしていきたいと思っております。そして、今幼稚園で、ほとんどの幼稚園がもう預かり保育をやっております。お母さん方に、預かり保育をしてどうでしょうかということを聞きましたら、まず一番先に言われることは、幼稚園が本当にもう安全で安心で、もう任せられるということが一番大きな大多数の方の意見です。そして様々な自分の用事ができるということを言われております。

そして、別にお母さんはご用事がないんですけれども、子ども自身が、もう預かりさんをしたい、子ども自身が遊びたいということで、預かりをしていただいている方もおられますし、預かりをして十分遊んでおった子どもは、夜も早く寝まして、早寝早起きの習慣がきちんとできて、本当にありがたく思っておりますという意見をいただいております。

幼稚園の方から見てみますと、群れて遊ぶということが今あまりないんですけども、預かり保育では、異年齢の子どもたちが一緒に遊んで、その中から人とかかわる力を養っているんではないかなと思います。また、年長になりますと、お母さん方が少しずつ働きに出られております。長時間のお仕事はまだされていないようですけども、４時半ぐらいから５時ぐらいまでにお迎えに来るような形が出ております。

それから、今、春休み、夏休み、冬休みとありますけど、長期の休みもほとんどの幼稚園が、もう預かりをしております。お母さん方がいろんなことで自分のいろんなことをできるように、それから働くこともできるようにということで、サポートをしております。

そして食の大切さを伝えるということで、講演会をしたり、それから、それぞれの幼稚園でいろんなお手紙等で、朝ごはんの大切さ、それから親子で食事をすることの大切さを、お手紙等、それから講演会等で伝えております。

それから、特別支援ということで、別に何にもちょっと見た目では分からないような子ど

もさんなんですけども、やっぱりちょっとよく聞けないとか、それから人とのかかわりが分からないとか、そういうように、もう少しこの子たちは気をつけておかないといけないなという子どもさんが、やっぱり近年少しずつ増えておりますが、そういう子どもさんの教育にも取り組んでいます。そういう子は４月、５月はちょっと心配ですけども、いろんなことをしていくことで、落ち着いてきて、そしてお母さん方も「こんなになると思わなかった」ということを言っていただきますので、やはり見つめて、そして育ててあげるということを忘れないようにしないといけないんではないかと思います。そういう精神面のサポートを幼稚園でやれることはやっていきたいと思いますけれども、それに対するやっぱり補助というのもないと、それぞれの幼稚園の負担というのはすごく大きくなっております。

また、専業主婦のお母さん方もサポートして、そして子どもさんが大きくなれば、仕事に就けていけるような道筋ができたらいいなと思っております。以上です。

【会長】　ありがとうございました。幼稚園特有のいろんなポイントが指摘されたかと思います。それでは三宅委員さんどうぞお願いいたします。

【三宅委員】　民生委員、児童委員の中で、主に妊娠中から１８歳までの子どもを担当するという主任児童委員という役割の人がいます。大分県下に３０３人いるんですが、ちょうど９月２０日に２００名超えた方の集まりがありまして、そのときにちょうどこのキャッチコピーについて、是非ということで訴えて、２００人超えた方に、このコピー募集チラシを持って帰ってもらい、各地で会議をして、それから子育てについて考えてくださいということをお願いしました。

この前、第１回のときに、子育てサロンのリーダー研修を受けられる場がほしいということをおっしゃった方もいて、私もお願いしたんですけれども、その具体的なことを考えたりしました。それからまた、サロンを持っている主任児童委員と話し合ったんですけれども、新たに研修をするというと費用がかかりますし、それはそれで終わってしまうので、できれば、今ある施設、例えば、今お話ししてくださった、幼稚園や、子どもルーム、保健所などいろんなところで、そういう子育てサロンを開催してはどうでしょうか。車に乗って何十分も走らないと行けないというようなところに立派大きな施設があるよりは、自分の地域に頻繁に行きやすいところ、安価で行けるところがあれば、いいんではないかなというふうな提案をさせていただきました。

そして、そこでは、相談を受けることもさることながら、そのサロンを各地でしている人たちが、ボランティアとして参加しながら、スキルのたくさんある人から伝授してもらい、そして自分の地元に持って帰って、それを広げていけるというふうな、教えもするけれども手伝いもするということをし、働いているお母さんたちも行けるように、夜の９時ぐらいまで相談する日が何日かあってもいいのではないかと思います。なるべく費用がかからないで、実効のあるものができないかなということで、ここに提案をさせていただきました。

各地に行くと、非常に立派な建物があります。税金をたくさん使ったため息が出るような建物は、要らないかなあと思います。もっと手軽で、それから皆に役立つものとして、各地に子育てサロンなどがあれば、この場で若い人の意見を吸い上げるというような役割も果たすことができますし、それから悩みとか、自分の子どもに少し障がいがあるんではないかというような相談もできます。そんな近所に気楽に行けるというようなところがあると、とってもいいなという提案です。

それと、若い人からの話の中で、子育ては身体がきついより、気持ちがきつい方が、とっても辛いということを聞きました。で、やはり父親がのんびりくつろいでて、自分はもう本当にきりきり働いてるというのではなく、皆で子育てをしてるというようなものを考えるキャンペーンがあったらいいかなということで、ちょうどこのコマーシャルの募集があったので、いいなあというふうに思います。それで、こういうのを利用して、皆で子育てについて考える。そしてできたキャンペーンのキャッチコピーが、とってもよくって、皆の気持ちが子育てに向いてくれるといいなというふうに思います。

【会長】　ありがとうございました。大上段で構えるんじゃなくて、日常生活の中で小まめに動ける、そういうところにこういうサロンがあるといいなというご意見だったと思うんですね。ありがとうございました。それでは宮津委員さんどうぞ。

【宮津委員】　別府市の福祉保健部長の宮津でございます。私、福祉保健部の部長と福祉事務所の所長も兼任をしております。そういったことで、実は午前中は福祉事務所の方の生活保護の仕事の関係で、ちょっと小さい会議があったんですが、その中で、大変最近は景気が上向いてるが、なかなかその効果が別府の方には見えない。まだまだ景気については厳しい面があるということを発言した経緯がございます。また、今日も、私の前の柴田委員さん、また佐藤委員さんについても、同様なことの意見がございました。

実は、今日、私の方は、企業に対する育児支援の取組について、若干のお願い等もしたかったわけでございますが、そういう面で厳しいことがございます。ちなみに、佐藤委員さんの関係で言いますと、子育て支援の行動計画というのが、今度法律で示されるようになっていますが、それが、数字で言うと、３００人以下の会社につきましては、１万５，０００社のうちに、届け出は僅かまだ２６社しかないとか、非常に厳しい数字があるわけです。そういった数字も踏まえ、会社の方に、お勧めも申し上げたいなというふうに思っていましたが、この辺は、県と一緒に今やっております子育て応援団の方で、またお願いをしたいというふうに思っております。

ただ、現実問題、私この４月に今のセクションに移ったわけですが、この４月に移って一番感じたのは、ものすごい数字が現状としてあるということです。というのは、よく少子高齢化社会というふうに言われます。じゃなくて、もう別府の場合は、少子社会、超高齢社会なんですね。もう本当、超が付くわけです。特に高齢者にいたりましては、２５．８０高齢者率、それから、先程来出生率のお話がございますが、出生率も年々下がっております。平成１４年が１．２５、これは、国の平均がやっと今年１．２５になったというあれがありましたけど、別府の場合は、３年前が１．２５、その次が１．２１、平成１６年の数字が１．１９なんですね。これはもう非常に厳しいものがございます。何とかしなきゃいけない。そういうことで、実はこの６月の議会に乳幼児医療の制度の改正がございました。これは大分県と共同で条例案を作りまして、議会に通しました。ところが、議会では、こんなもんじゃ納得いかないというご意見がございまして、もうちょっと何とかならないかと。また、医師会とかいろんな団体からも、もう少し頑張ってもらいたいというご意見がございまして、私もこの別府市のこの１．１９というこの出生率をなんとか上げたいと、市長に直談判しまして、何とかしてもらいたい、これからは福祉を前面に持っていかなきゃ、市はもう大変なことになりますよということで、お願いをしまして、またこの９月の議会に、６月の議会の議案の改正の改正を出しまして、やっと、大分県下で言えば、日田市と同じぐらいのレベルま

で上げたわけです。

内容を簡単に言いますと、１歳から３歳児未満の乳幼児の医療費を無料にしたわけでございます。これにつきましても、医師会の協力もございました。特に別府の医師会の会長が、今度小児科の河野先生がなりましたので、そういう関係もありまして、事務局とそういう各界の折衝もございました。そして、私が今一番感じていることは、こういう命にかかわるような医療制度とか、こういうものは、県によっても違う、市町村によっても違う、いわゆる行政レベルで、例えば、大分市と別府市と日田市と中津市とか比べて、どうだこうだという話が当然出てくるわけですね。それはやはり、本当はおかしいんじゃないかなというふうに思っております。こういう命にかかわる制度というのは、やはり全国レベルで統一したものを、できれば制度として定着をさせてもらいたいというふうに、今日は知事さんがいらっしゃいますので、あまりいろんなことは申しませんけど、個人的にはそのように思っております。

また、今年、大きな事業として、障がい者の支援法のいわゆる軽減措置がありました。これにつきましても、やはり市町村によっては内容が違うわけです。非常にこういうふうに、これからは行政レベルでこういう差が出てくる、現に出ている。これは本当にいいのだろうかなあというのが、私の率直な疑問でございます。

この会議は少子化でございますので、その少子化の対策の面でも、やはりできれば皆さんと共同した方向で持っていきたいなというふうに思っています。また、皆さん方のご意見を、是非別府の市政にもこれからも生かしていきたいなというふうに思っています。どうもありがとうございました。

【会長】　ありがとうございました。１．１９という合計特殊出生率、ちょっと大変な数字の中で、熱のこもったご発言だったと思います。それではもうひとかた、山本委員さんどうぞ。

【山本委員】　山本です。経済的な余裕だけが、動機の全てになると思いませんけれども、２人目、３人目というときに、躊躇するというのはよく聞くような気がしております。そういったことで、前も僕は言ったと思うんですけども、出産をする女性が仕事を離れてまた仕事に戻ってというような、そういううまい回り方ができるような環境づくりができたらいいんじゃないかなと思います。　　次世代育成支援行動計画の目標指標の３７番とか、３６番とかそういった制度が普及し、導入されたというところから、実際に運用されている割合がどんどん増えたらいいなと思います。以上です。

【会長】　ありがとうございました。第１回目に出たご意見をいくつか具体化してはどうかということだったかと思います。もうひとかたですね、吉永委員さんどうぞお願いします。

【吉永委員】　公募委員の吉永と言います。私は、コーチングというコミュニケーションのとり方がありまして、特徴としましては、答えは相手の中にあるということで、指示命令ではなく、分かりやすく言えば、あなたはどうしたいんだというところから会話が始まるものなんですけど、そのコミュニケーションのとり方を、子育てにも是非活かしてもらいたいということで、講座を開き、学校の生徒さんや、ＰＴＡの方を対象にやっております。それで、参加する方がほとんど女性なんですね。９割の方が女性で、ある高校では、ＰＴＡの方の男性の参加者が１人もいませんでした。それで、なんでかということでちょっと聞いてみたところ、実際、参加しにくいという言葉がやっぱり一番多かったんですよね。また、いろんな

施設などもあるのだけれど、そういったところも、遊びに行きたいんだけれど、非常に入りにくい。外観がピンクで居心地が悪いとかそういったこともあるようです。原因としては、それだけじゃないんでしょうけれど。

そういった一方で、私は小学生の子どもがおりまして、父親部にも入っていますが、父親部が中心になってなんかしようということになれば、必ず、親だけじゃなくて子どもと一緒になんかやりたい、子どもも巻き込んでやろうという言葉が必ず出るのですが、そのときやっぱり（参加しづらいと）言われるわけですね。ですから、あえて父親限定とか、お父さんのためのとかみたいな形で何かやれば、男性の参加者がまた増えるんじゃないかなあと思います。ただ、父親が参加しづらい一番の原因というのは、やっぱり残業であったり、休日であったり、時間のことになると思います。そのために育児休業だとか、残業をしないということはやっているとは思うんですけど、今すぐやれることとして、上からやることもそういったことも大事だけど、じゃあ今すぐやりたい人に向けて、その人たちに合わせた時間、曜日にすることも、必要じゃないかなあと思っております。

また、これはちょっと別の話で、告知の仕方なんですけれど、いろんな本当にいいイベントがされていると思うんですけど、例えばこういったＣＭとか、もう１つのもそうなんですけど、知らなければ、ないのと同じだと思うんですね。自分としては、かなり子どもとか子育てとかいう言葉にはアンテナ立てている方だとは思うんですけど、やっぱり知らないことがたくさんありまして、すぐ近所のグリーンカルチャーセンターであっていたのを、知らなかったということもありまして、そこの人と館長の方とも話しましたら、やっぱり告知の仕方に問題があるということも言われてました。

ですから、例えば日岡小学校とかだったら、メーリングリストみたいなのがありまして、不審者が出たら、すぐに登録してるお父さん、お母さん方にメールが、近くに不審者が出たので気をつけてくださいみたいな形で回るんですけど、これは可能かどうかは分からないんですけど、例えばそういったラインを活用することによって、知ってる人の数、分母がやっぱり増えれば、参加する人の数も増えてくるんじゃないかなあと思っております。以上です。

【会長】　ありがとうございました。普段はお母さん方への声かけということがメインになるけど、お父さん方への声かけ、あるいは父親向けということをもっと出してはどうかと、確かにそうですね。私も初めて長子の小学校のＰＴＡがあったとき、私が出たんですけど、ほとんど女性で、男は私１人なんですね。で、右も左も、私のところだけ椅子が１つか２つ必ず空くのです。だから私のところがとても目立ちましてね、女性が多いから両手に花かなと思ったら、両手空っぽになってしまうんですね。「両手空っぽにしないで誰か来てくれませんか」とかって冗談言いましたら、じゃあ可哀想だから寄ってくるかというお母さん方もいらっしゃって、どうにか塞がってほっとしたところなんですね。今の吉永さんの話を聞いて思い出したとこです。若かりし頃をですね。

それでは、私たち２人が、今度は話をしなければいけないんですが、３ページのほうに大嶋副会長のご意見が出ていますので、お願いいたします。

【大嶋委員】　大嶋でございます。私は、２つの提案と申しますか、意見を書かせていただきました。第１番目は、児童相談所機能の強化ということにさせていただいたんですけれども、児童相談所という専門機関が県下に２箇所あって、ここはやっぱり最後に頼れるところなわけです。確かに虐待の問題等で強化されてきていて、それは実感するんですね。去年よ

りは今年の方がまだ頼りになるといいますか、そんな感じがします。それ以前も、個人的に知り合っているので、非行の問題で専門家のケースワーカーと心理職の人が対応してくれたら、この問題はかなりうまくいくかなと思っていろいろなお願いをしようと思うんですけど、あの忙しさと、生きるか死ぬかという問題を抱えている職員に、なんかお願いするのがはばかられるというようなことも、実はありました。私のところは、大学の中に臨床心理相談室がございまして、子育ての相談も、不登校の問題とか、お母さん方の悩みとか、そういうものも来るわけですけれど、連携していくときに、本当に児童相談所というのは頼りになるけれど、あの厳しい状況の中で、申し訳ないなという感じがするので、去年に比べたら、一昨年に比べたら、これだけ充実してきたんだということをスタッフの方も言っておられるんですけれど、でもやっぱり、まだまだハードの面でもソフトの面でも、強化していただくとありがたいかなと思います。それは、例えばスクールカウンセラーとか、その他教育関係者の方とか、あと子どもにかかわっておられる民生委員の支援の方とか、やっぱりそれを強く感じておられるような気がいたします。

もう１つ下に書きましたことは、もう既に藤本委員も吉永委員も言われて、いろんなことがなされているけれど、それが適切なところにうまく伝わっているかとか、利用しやすいかどうかとか、そういうところがあると思うんですけれど、本当に、先程から身近なところでというのがよく出てきましたけれど、小さい地域の中で自分たちが手軽にいける中で、どういう社会資源があって、こういうときは、困ったときはここというか、そういうものがあるといいかなとそんなふうに思って、子育て応援マップのようなもので、次々、新しいこういうイベントがありますよとか、なんかそういうものと、比較的、固定的な社会資源が、全県的にというんではなくて、足元のところでできるといいのかなという感じがいたしました。そういう意味で、この２つを提案させていただきました。

【会長】　最後、私もじゃあ一言だけお願いいたします。１０ページのところに書かせていただきましたけども、この私たちの会議の大きな目的というのはどうなんだろうかということに、そこを根拠にしまして、３つほど上げさせていただきました。

１つ目、これはもう皆さんからたくさん言われたこととほとんど同じです。それから２つ目も、今、大嶋委員さんもおっしゃったような、それから他の方もおっしゃったこととほとんど一緒ですね。子育て広場もしくは子育てサロン、いろんな言い方があるかと思います。それともう１つ加えて、子どもたちに対して、私は、次の世代を育成するということであれば、自己実現とそれから社会貢献、あるいは他者貢献といっていいと思いますが、その社会貢献とか他者貢献ということになると、利己主義じゃなくて利他主義という、ちょっと耳慣れないかも知れませんけど、少し最近は使われ始めています。この利他主義ということも、今教育の中に入れていかなければいけないのではないかなというふうに思ってみたところです。

そして、利他主義といってしまいますと、道徳がカミシモを着たようなとても厳めしいことになると思いますので、道徳に普段着を着せて、そして誰もがそれを実行できるようにということで、教材化していってみてはどうだろうかと。例えば、ＮＨＫさんの“プロジェクトＸ”という番組長く続いたんですが、あれはまさに、現代版の利他主義ということを放送したんではないだろうかというふうに私は思っています。中学校の図書館に行きますと、かなり入っていますけど、生徒がどれくらい読んでいるかちょっと見ると、まだあんまり手垢

が付いてなくてちょっと残念だなというふうに思うところがありました。ということで、そこ３つ目に書かせていただきました。他はほとんど皆さん方と一緒のところが多かったというふうに思っております。

それでは、一通りここで委員の皆様方から寄せられた意見を中心にしまして、県政に対するご意見・提案を発言していただきましたけれども、もうちょっと時間を取ることができます。あと６～７分取ることができますので、意見をまとめて印刷する期限までに間に合わなかった委員さんもいらっしゃいますので、その委員さん方、それから他の委員さん方でも結構です。３つか４つぐらいはご意見いただけるんではないかと思いますので、お聞きして、こんなことが大事なんじゃないかとか気付いた点を、今日は知事さんもいらっしゃいますし、出していただけるとありがたいと思います。いかがでしょうか。時間がきたら閉じなければいけませんので、早めに手を挙げていただきたいと思います。どうですか。後藤さんいかがですか、何か先程から少し目が輝いておられますけど、お願いいたします。

【後藤美和委員】　そうですね、今回ですね、発表していただいた方の中で、実際に子育てに携わっていらっしゃる方もいらっしゃったんですけども、一般公募の方で、今回新しく加わった方にも何かお話が伺えればなという、実際小さいお子さんを育てていらっしゃるお母さん方の大変さというのを、こういった場でお聞きできればなというふうに思うんですが。いかがでしょうか。

【会長】　今日ご出席の方で、一般公募の方、青柳委員さん、それから吉永さんそうですね、それと、あと田中さんもそうですね。ちょっと３人の方、一言ずつご発言、もう１人、そうですねごめんなさい、後藤みかさん、お隣さんですね、じゃあお隣の後藤みかさんから何かありましたら。公募委員さんからのご意見をもうちょっと聞きたいということですね。

【後藤みか委員】　そうですね、私が思っていることは、後藤さんの質問とはちょっと異なると思うんですけど、前回にもお話に出ていた子育てのお母さんたちの間でのリーダー的な存在の人とか、中間的な立場でいろいろつないでくれるような役割の人とかがいますが、何か意見が出たときに、ＰＴＡの役員とかでも何でもそうなんですけど、１個引き受けちゃうと、全部が向かってくる。地域の会議からなにから、全て関わるものがだーっと来て、もうまるで私の自由はない。子どものためにと思ってやっているのに、子どもを１人置いて出なければいけないことが増えるとか、そういうふうな愚痴をよく聞くことがあります。私自身もなんかそういういろんな活動をしながら、何のためにやっていたのだろうというふうなことを思うことが多いんで、やっぱりいろいろリーダー的な人とか、そういう確かに強力なリーダーシップを発揮する人も必要なんだけど、皆が分担できるような複数体制でのいろんな活動の分担だったりとか、そういうことができると、任せられる安心というのはあるかなあというふうに思います。ちょっとなんか意味不明な部分もありますけど、お願いします。

【会長】　新しい角度から、今意見を出していただいたと思います。その方が子どものためにと思って活動したのに、かえって子どもを置き去りにしなきゃいけないような事態が実際起きることがあると思いますね。勿論そこをうまくこなす方もいらっしゃるかもしれませんが、青柳委員さんどうでしょうか。もしかして今のことと関連してご意見いただければありがたいですし、あるいはそうでなくても結構です。

【青柳委員】　私は１歳半とそれから５歳の男の子２人おるんですけれども、前回もちょっとお話しをいたしましたが、今回、非常に皆様共通でおあげになっているのが、ワンストッ

プというか、情報を集約するところが必要だということが出ておりましたけれども、私も、昨年、子どもが生まれたときに、生まれてすぐに病気にかかったんですが、そうすると、当時４歳の男の子と２人きりの生活を１週間しなきゃいけなかったんですね。会社はありますし、洗濯、掃除全部やらなきゃいかんと。キャーッと思ったときに、どこに相談していいか分からないという状態になります。後から考えれば、インターネットとか見れば、あったんですね。あったんだけれども、その時は頭が真っ白で全然分からない。そういったときに、とにかくここに電話すればいいだというのが１箇所あれば、非常に助かったんではないかと。逆のパターンで言うと、今度は最近なんですけれども、外出先で子どもが熱を出したんですね。どっか病院に行かなきゃいかんと。どこの病院が今日開いてるのかなあというのを調べるときも、今度は、隣に住んでいるお母さんのとこに、うちの家内が電話をかけまして、大分合同新聞見て、今日はどことこう言うと、すぐにどこどこ病院とこう返ってきたんですね。そういった意味では、持つべきものは地域コミュニティかなという気がいたしますが、こういうのも、もしそういう窓口があれば、もっと効果的に、病状に合わせたアドバイスがもらえるんじゃないかというふうに思いました。

【会長】　そのワンストップ、そしてその場合にどこをどういうふうにインプットしたら必要な情報が入ってくるかですね。私も合同新聞に当番院が書いてあるのは、あれは本当にいいなと思って、何度もお世話になりましたですね。山本委員さんありがとうございます。それから吉永委員さんどうでしょうか。今のお二方の意見と関係していてもいなくても結構ですので、どうぞ。

【吉永委員】　そうですね、今は子育て本当楽しいことばっかりです。いろんなところに行くと、本当、子育てて大変とかいう話ばっかりで、大変大変ばっかりで、大変な話はよく聞くんですけど、楽しい話ってあんまり聞かないんで、是非、楽しい話大会みたいなのをすれば、子どもさんがいない人は、子どもできたら楽しいんだと思うことが多くなるんじゃないかなと思います。以上です。

【会長】　楽しいことを語る大会もいいかもしれませんね。大変のついでに、大変だ大変だ、大変ですよ、大変楽しいんですよと言ってしまうと、いいのかもしれませんね。それじゃこちらの三宅委員さん。

【三宅委員】　今、いろいろワンストップとかお話が出てるんですけれども、スクールガードにしてもそうなんですけれども、子どもを安全に登下校させようとなると、まず大分市の場合ですと、赤いタスキが来ました。その後、警察からも来ました。それから緑のタスキが県から来ました。で、行き着く先はみんなボランティア、地域のボランティアさんですから、同じ方なんですね。あのへんをもうちょっと、どうにか整理ができないと、この情報のどっかというところも、もう皆さんが手を挙げていろんなところでしてて、またスクールガードのタスキのような各色が集まるのではないかという気がしますので、そのへんの整理を、皆さんの知恵を集めて少し検討していただけたらと思います。

【会長】　県の方は、委員等は５つまでというふうに、最近原則定めたそうですので、こちらの方ももしかしたらいくつまでとか、必要かもしれませんね。どうぞ。

【藤本委員】　さっき青柳さんですかね、お話になった、例えばどっか出かけたときに、子どもが急な発熱、これ多分全国的に、全ての県じゃないですけど、今＃８０００番といって、電話すればその地域における救急、それから病院にかかるべきかそうじゃないか、いろんな

相談に乗る制度があるんですね。こういうことが結局知られてない。

私どもが、これは大分県方式のペリネイタルビジットというのは、子どもが生まれる前に、もし子どもが何かあったときには、あなたの地域では、救急の病院ではこういうのがありますよ、あなたのところにないけども、ここに電話をかけると、ここにつながって、こういうふうになれますよということを、予めいろんな情報を教えるんですね。私は、それはかなり生まれるとき必要だろうと思って、たまたま国の少子化社会対策推進会議の専門委員として出てるときも、意見を出して、おそらくその一部は取り入れられたと思うんですけども、子どもが生まれて、私は２箇月までというんですが、４箇月までに、「こんにちは赤ちゃん」だったですかね、という形で訪問する。でも、その趣旨がちょっとずれてる、私が言いたかったのとずれているのです。どこがずれたかと言うと、それは、誰か専門的な子育て支援のための知識を持った人が、家庭に訪問して、その家庭の子育て状態が健全であるか、あるいは少し手助けしとるかどうかを判断しようと思って、そういう形で押しかけて行くような形になって、それは僕は大きなお世話で必要ないと思っています。どこかに訪ねて行けばその情報が与えられて、入口１つで、出口はいっぱい紹介しますよという制度さえあれば、いいんじゃないかと思うんですね。

ですから、そういうことを、家庭訪問してそういう情報をすべての新しく生まれたとこに伝えましょうというのは、あなたの住んでる地域では、こういったことができます。でも、あなたの地域はこれができないから、その代わりこれはこういう形で他の地域で利用できますよと。その場合、有料ですよとか、あるいはどうですよというようなことの説明ができる、そういう情報を持って行くわけであって、なにも、ここは大丈夫かなという、そういうような形の人を送り込むような必要はないと思うんですね。

だから、かなり趣旨の違いがあります。ちょっと話が少しずれたんですけど、結構やっぱりずっとお話ししてる中で、本来今ある制度さえ十分周知されないし、それからやろうとしてるから、どうしても、ちょっとこれは批判になります。行政が施策を立てていくときに、焦点の当て方がちょっと違うんじゃないかな。私も先程の発言の中で言いましたけど、やはり９０数％を占める健全な方々が、健全な生活が営まれるような支援策というのを大きく打ち出す。それは何だということをはっきりさせておくということが大事じゃないかなというふうにずっと感じております。

【会長】　ありがとうございました。それじゃ、このあと知事さんからコメントをいただきたいと思いますので、田中委員さん、本当にちょっと、１分程度で何かもしありましたら、お願いしたいと思いますが、いかがでしょう。

【田中委員】　田中です。そうですね、皆さんが言われている子育てに関するいろんな楽しいことというのを聞いて、自分も子育てをしたいなと思うんですけども、ただ、１点、私は今、県外に恋人がいまして、大分に来て大分で働いてほしいと言ってるんですけれども、なかなか大分で働く場を、県外に住んでいて見つけることができない。県外から大分まで来て、大分で探すとあったりするんですけど、やっぱり大分まで来るのが大変なので、やっぱり県外に住んでいても働く場、若い世代が働く場を見つけられるものというのを、それこそ情報集約ということもあるとは思うんですけれども、インターネットでも何でもいいんですけれども、県外でも大分で働ける場所というのをしっかり見つけられるように、現状の情報量は非常に少ないと思いますので、もっと増やしていただきたいと思っております。お願いしま

す。
【会長】　ありがとうございました。仕事の場をということですね。ありがとうございました。
　それでは、まだまだ意見いっぱいあるかと思うんですけども、ちょっと時間がだいぶん押してまいりました。ここで、広瀬知事に、皆さんの意見・提案等をお聞きになられてのご感想をいただければというふうに思います。１０分少々ございますので、どうぞお願いいたします。
【大分県知事：広瀬勝貞】　どうもありがとうございました。皆さん方からいろんな意見を出していただきましたけれども、私がお聞きしていて、４点ぐらいに分けられるのかなとこう思いました。
　１つは、子ども・子育て応援のインフラといいますかね、それについてのご意見があった、多かったと思います。子育てしやすいまちづくりのお話も大変興味深く伺わせていただきました。それから産院のお話も、これも大分県内、産院がない所も多々ございまして大変心配な点でございます。それから、障がい児の保育の問題についてもご指摘がありました。それから、児童相談所が大分県２つあるんですけども、これは最後の、支援の最後の拠点になっているわけですから、そこのところの充実を忘れるなというお話もありました。これはこの３年間相当見直しをして強化したはずですけども、非常に大事な点だと思いますので、そんなこともやりたいと思います。それから勿論、幼稚園や保育園の機能についても、大変大事なご指摘をいただきました。今申し上げましたように、いろんな意味で、子ども・子育て支援のインフラについてのご指摘があったと思います。大変貴重なお話でございました。
　それから、第２番目は、どちらかというと、ソフト面での子ども・子育て支援ということではないかとこう思います。子育ての情報コーナーというのが、大変に賑わいを見せていると。ああいうのが非常に大事なことだというお話、それから子育てサロンについても、これも非常に大事なものだから、むしろ大掛かりにやるということよりも、いろんなところで、あり合わせの施設でもいいから、いろんなところできめ細かくやるようにするということが大事なんじゃないか。大変貴重なお話だと思いました。それからどなたかが、キャラクターについて考えたら面白いんじゃないかというお話がありました。皆で子ども子育て、０歳の時にはこんなことも、２歳になったらこうなって、１０歳になったらこうなってというキャラクターを作ったらどうだというお話ございましたけれども、これなんか、こういうＩＴの時代に、県民の皆さんでキャラクターを作ってみて、そうすると大変子育てというのが楽しいものになっていくということがＰＲになって、随分面白いかなと、こう興味深く聞かせていただきました。
　それから、子育てヘルパーについてのお話もありましたけども、特に、子育てヘルパーについて、小学校に通った以降の子どもたちの面倒をみることが大事、それから、家にこもっておられる専業主婦の皆さんのヘルパーということも大事だと、そういう人に対するヘルプということも考えて、子育てヘルパーという新しい展開をというご提案で、ソフトの面でも非常に貴重なご指摘をいただいたような気がします。
　３番目のカテゴリーは、きっと子育てに向かう気持ちにさせる環境づくりということだろうと思います。１つは、福井県の例をとって、働き方についてよくよく考えてみたらいいというお話がございました。それから、出会いの場を作れということで、一応、県として出会

いの場づくりのための環境を整備してみたんですけれども、改めて今度は、代理見合いという新しいニーズもあるぞというご指摘をいただきまして、とにかく、出会いが叶うならば何でもやってみたいとこう思いますので、これも大変興味を持って聞かせていただきました。

それから、やっぱり楽しくできるだけ心の負担、気持ちの負担なく子育てをするというためには、夫、男性の子育ての参加が非常に大事だということがございました。それによって、気持ちを楽にしながら楽しい子育てができるようになると。その男性の子育て参加についても十分に考えろと、これがまた、子育てに向かう環境整備として非常に大事な点ではないかというような感じがいたしました。この問題が第３点。

第４番目のカテゴリーとして、これも非常に大事なご指摘でございましたけども、子育てのための応援をしてくださる皆さんの応援ということを十分に考えるということだったんではないかとこう思います。ＮＰＯなどの応援団が、たくさん今できてきてますけども、そういう応援団をやっぱり真剣に応援をしていかないといけないぞというご指摘もありました。

それから、いろんな応援団があることに対して、それをネットワークで結べと、構築しろという、ネットワークの構築という、これも大変大事なことだと思います。同じような意味で、子ども・子育て応援マップの作成というようなお話もありましたけども、困ってる人が、いろんな手はあるんだけども、その応援に届く前にもう大変苦労するということは本当に多いと思います。ネットワークの構築だとか、応援マップを作っていくということは、非常に住民にとっては心強い、それこそセーフティネットになるような気がいたしますので、これもちょっと真剣に勉強させていただきたいなとこう思っているところであります。

今日、大変貴重なご指摘をいただきましたけれども、どなたかのコメントに、この中で、私がかつて言ったことについて、どれか実施されたものがあるかというご指摘がありましたけれども、今度は、どれか実施されなかったものがあるかと言われるぐらいしっかりやっていきたいとこう思います。ありがとうございました。

【会長】　ありがとうございました。そうですね、前回、知事さんから２人目産んだ方に３人目どうですか、３人目産んだ方に４人目どうですかということも、やっていかなければいけないなと、今またお話をお聞きしまして感じたところです。ありがとうございました。議論は尽きませんけど、そろそろ予定された時刻も来ようかとしております。最後になりますけど、議題５番、その他ということになりますが、事務局の方からありましたらお願いいたします。

【事務局】　では、折角の機会でございますので、資料を３種類お配りをさせていただいております。「おおいた子育て応援団」、それから緑色の紙の「おおいた出会い応援センター」、そしてピンクの紙の「子ども・子育てラジオＣＭコピー募集」ということで、それぞれ委員の皆様の中で何点か触れていただきましたので、改めて申しませんけども、それぞれ、子育て応援団や、出会い応援団、更にラジオＣＭコピーということで、県として取り組んでおりますので、より多くの方にご参加いただきますように、皆様方におかれましては、どうぞお声をかけていただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

【会長】　皆さん方折角ですから、何かこういうことがあるとかという、何かお知らせ等ありましたら、短い時間ですけど、よろしいでしょうか。

【佐藤委員】　ラジオＣＭコピーですね、これはラジオＣＭとして放送する広告文案ということなんで、どういうような形で書けばいいんですかね。例えばしゃべるような形で書くと

か。
【事務局】　この裏側にちょっと書いておりますけども、大体ラジオのＣＭということで、３０秒程度のラジオＣＭを予定しております。そのＣＭコピーというのは、ＣＭの原稿になりますので、こういった形で、例えば子育てって楽しいもんだよねといったことを、父と母の会話形式であるとか、父親と子どもの会話だとか、作られる方が場面を設定していただいて、そこに会話を入れるとか、ここで効果音とか、そこまでしていただければいいんですけども、イメージとしてはそういった感じの原稿を作っていただければということでございます。よろしくお願いします。
【会長】　よろしいでしょうか。他に何か。よろしいですか。ありがとうございました。それでは、今日は、皆様方からたくさん県の施策等に対するいろんな意見・提案、アイデアをご発言いただきました。皆様からいただきました意見や提案については、今後の県政を進める上で検討、あるいはご参考にしていただきたいと思いますが、実際には、県が取り組むこと、市町村が取り組むこと、あるいは、今日、各団体から発表いただきましたように、地域、学校、企業又は個人など、県民それぞれの立場から取り組めることなどがたくさんあるのではないかと思います。これからも、県民総参加でこの子育て支援の取り組みを進めていくために、本日の皆様方の意見や提案を今後皆様がそれぞれのお立場で活動していく上でも参考にしていただきますようにお願いいたします。
　これで会議を終わらせていただきますが、長時間にわたり議事の進行にご協力いただきまして、ありがとうございました。それでは、ここで、またマイクを事務局にお渡しいたします。
【大津留部長】大変長時間お疲れでございました。非常に多くの示唆に富んだご意見・ご提案をいただきました。私どもも、日頃から計画に基づきましてやってはおりますが、やはり現場で実際に見聞きしている、あるいは行動してる皆さん方のご意見というのが、実に私どもの胸に響いてまいります。この多くの出された意見につきましては、今後、県の施策の立案に、大切に生かしてまいりたいと思っております。
　私も今日は、目からうろこが落ちるというか、そういう心境もございました。私どもがやっていても、それがきちっと響いていかない部分がある、あるいは現場の方でやはりいろんな相談施設、相談所、それにいろんな人がいます。そういった方々のお互いの連携、ネットワーク、あるいは県と市町村、それからまた、民生児童委員の方々、そういった方々のうまい連携と、そういったものが実に大事だなあということを感じたとこでございます。それでは、本当に長時間、ご熱心にご討議いただきましてありがとうございました。以上をもちまして、「第２回おおいた子ども・子育て応援県民会議」を終了いたします。ありがとうございました。